

困っている方にこそ訪問介護サービスを届けたい 「人づくり」を大切にするエリアマネージャー

キャリアアップ

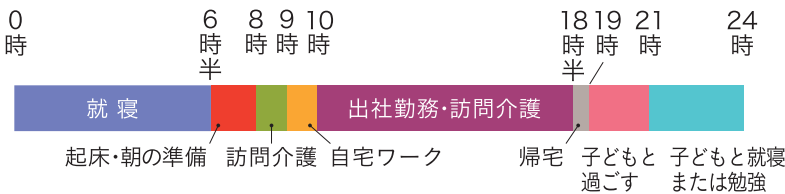
高崎和也さん / 42歳

株式会社アスパル 事業本部
訪問介護事業所のエリアマネージャー / 介護福祉士・介護支援専門員等

キャリア

18歳頃	福岡から東京の大学へ、プログラミング・電子工学を学ぶ
大学時代	教授の誘いで、障がい者施設の有償ボランティア
27歳頃	東京の事業所で訪問ヘルパーとして働く
35歳頃	東京から福岡へ、今の職場に転職。管理者兼訪問ヘルパー
38歳頃	エリアマネージャーに就任

ある日の1日



- ケアの経験を通じて気づかされた自分と仕事の相性
- 技術と工夫で組み立てる訪問介護サービスの醍醐味
- 処遇改善が進んできた今こそ大切な、人づくり・職場づくり

福祉の仕事を始める前は何かをしていた？

— 障がい者施設でのボランティアが福祉との出会い

大学は東京で、電子工学・プログラミングを学んでいました。教授からの誘いで、障がい者施設で有償ボランティアを始めたことが、福祉の仕事との最初の接点でした。当時は髪を水色にしていたのですが(笑)。

車椅子を利用する身内がいたこともあって、最初から違和感はなかったですね。ボランティアでは障がいの重い方を担当することもありましたが、母親への思いを伝えてくる脳性まひの小学5年生、演奏で全国を飛び回るALSの方と接して、単純に感動したことを覚えています。その後はアルバイトとして、福祉器具の紹介もしていました。様々な経験を通じて、人と触れ合う仕事の方が自分に合っていると、気づかされていきました。

— 工夫を凝らしてサービスを組み立てる現場の面白さ

最初から仕事として介護に関心があったわけではないんです。掛け持ちのバイトのひとつだったのですが、人と接する仕事が好きで、ヘルパー2級の資格を取るまでになりました。その後、東京の介護事業所にヘルパーとして就職しましたが、実家のことがずっと気がかりで。そんな時に今の社長から声がかかり、福岡に戻ることにしました。

最初は管理者兼ヘルパーとして働き始めました。いまはエリアマネージャーですが、現場は面白いです。在宅生活を諦めていた方に、これまでの経験から技術と工夫を凝らして、サービスを組み立てていく。一般に難しいとされる方こそ、取り組む意義が高いと思っています。職人気質なのかもしれませんね。

！ 福祉の仕事が続けてきた中で感じる「これから大事なこと」は？

— 介護業界が変化している今こそ 人材育成が大事

15年ほど介護業界で働いてきて、昔と比べて、介護士の処遇も良くなって、稼げて、生活も十分できるようになりました。タイミング的にも今がチャンスで、小規模で事業所を立ち上げ、管理者等の役職も増やしていける。そこで、人材育成が大事だと思います。資格、経験に拘り過ぎずに採用して、やりたいことを担ってもらおう。その中で、面談をよくしますね。入社時から「3年後、どうなっていたいか」を確認する。その後も話を聞いて、課題を具体的に見つけて、落とし込み、繰り返し整理していくようにしています。

— ICTや機器を取り入れて長く勤めてもらう

面談などを通して、非効率な部分など、いま抱えている業務課題も見えてきます。そこで、オンライン会議システム等のICTやノーリフト等の介護機器で必要なものは積極的に取り入れています。ただ、使いこなすための学びもスタッフの負担になるので、何のために取り入れるのか、意識しています。その時に、プログラミングの知識や、福祉器具の専門相談の経験が役に立っていますね。



！ 仕事以外はどんな生活をしている？



— インドア派ながら、最近は家族でキャンプへ

もともとインドア派で、プログラミングもゲームが作りたくて、大学で学んでいました。最近はマイクラフト関係を子どもと一緒にしています。子どもはプログラミングを覚えるのも早いですね。

ただ、何となくキャンプは好きで、近場にあるいろいろなキャンプ場によく足を運んでいます。キャンプ用品もじわじわ揃えていますよ。帰ってきたら、疲れてヘトヘトなんですけどね(笑)。子どもとテントを組み立てたり、焚き火を眺めてみたりと、普段と違う過ごし方をすることが好きなのかもしれません。

取材を
終えて

介護業界のピークアウトを気にしつつ、やりがい・面白さの面で子どもにお勧めしたいと語る高崎さん。親でもあり経験豊かな介護士でもあるKAIGO人の姿を感じ取ることができました。